



TITLE:

[共同利用・国際協同観測・研究交流]研究会

AUTHOR(S):

---

CITATION:

[共同利用・国際協同観測・研究交流]研究会. 京都大学大学院理学研究科附属天文台年次報告 2015, 2013年(平成25年): 39-42

ISSUE DATE:

2015-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/218109>

RIGHT:

- ・野上 大作: 6月22日-27日 ハワイ (アメリカ)  
国立天文台ハワイ観測所で観測を実施
- ・柴田 一成: 6月22日-29日 ブリスベーン (オーストラリア)  
2013 AOGS (Asia Oceania Geoscience Symposium) に出席
- ・高棹 真介: 6月30日-9月1日 コロラド州ボルダー (アメリカ)  
High Altitude Observatory に滞在  
受入研究者: Dr. Yuhong Fan  
研究テーマ: 「デルタ型黒点の形成過程の理解」
- ・柴田 一成: 7月21日-23日 中れき市 (台湾)  
ISSS-11 (The 11th International School/Symposium for Space Simulations) に出席
- ・竹重 聡史: 7月21日-28日 中れき市 (台湾)  
ISSS-11 (The 11th International School/Symposium for Space Simulations) に出席
- ・一本 潔: 7月22日-7月28日 (韓国)  
KASI、キョンヒ大学にて、コロナグラフに関する協議・セミナー
- ・永田 伸一: 8月4日-8月11日 (韓国)  
キョンヒ大学にて、共同研究
- ・一本 潔、川手 朋子、阿南 徹: 9月8日-9月14日 昆明 (中国)  
Solar Polarization Workshop 7 に出席
- ・野上 大作: 10月23日-27日 Hangzhou (中国)  
The 2nd Asian-Pacific Solar Physics Meeting に参加
- ・萩野 正興: 10月27日-10月31日 北京 (中国)  
The Helicity Thinkshop にて口頭発表
- ・野上 大作: 11月20日-24日 チューリッヒ (スイス)  
Swiss-Kyoto Symposium 2013 に参加
- ・Andrew Hillier: 11月24日-12月7日 ソウル (韓国)  
Seoul National 大学にて研究打ち合わせ

## 8.4 研究会

### 天文台主催・共催

1. 第6回 宇宙総合学研究ユニットシンポジウム「人類はなぜ宇宙へ行くのか 4」  
2月2日-3日 (京都大学)
2. 太陽研究シンポジウム「活動極大期の太陽研究、そして新たな太陽研究への布石」  
2月20日-22日 (立教大学)  
世話人 (上野悟)
3. 第2回 スーパーフレアワークショップ  
3月3日-4日 (兵庫県立大学西はりま天文台)  
世話人 (野上大作)

4. Japan-Peru: The 3rd FMT Data Analysis Workshop  
 3月10日-15日 (飛騨天文台)  
 SOC (K.Shibata, A.Ayumi, R.Kitai)  
 LOC (S.Ueno, K.Ichimoto, S.Nagata, T.T.Ishii)
5. Mathematical analysis of maghydrodynamical processes in stars  
 9月25日-27日 (関西セミナーハウス)  
 世話人 (柴田一成、磯部洋明)
6. The Seventh Hinode Science Meeting (Hinode-7)  
 11月12日-15日 (飛騨・世界生活文化センター、岐阜県高山市)  
<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/hinode-7/>  
 SOC Co-Chair (K. Shibata)  
 LOC (K. Ichimoto(Chair), S. Nagata, S. Ueno, A. Asai, T. Anan, M. Hagino,  
 A. Hillier, T. T. Ishii, T. Kawate, K. Nishida, D. Nogami, A. Oi)



2013年11月12日～15日、第7回「ひので科学会議」(Hinode-7)が紅葉に映える飛騨高山の飛騨・世界生活文化センターにて開催されました。世界各国から太陽研究者が集うひので科学会議は、2006年に太陽観測衛星「ひので」が打ち上げられた翌年から、アメリカ、ヨーロッパ、日本の各国の持ち回りで毎年開催されており、日本での開催は2009年に東京で行われた第3回会議以来となります。

「ひので」はこれまでに700編近い査読論文を生み出してきましたが、2008年～2010年に異常ともいえる太陽活動の低迷期があり、静穏領域の観測に多くの時間を充ててきました。現在、太陽は第24活動極大期を迎え、今回の会議は「ひので」が新たに生み出しつつある活動現象の研究成果にも焦点を当てたものとなりました。また、その間 Solar Dynamics Observatory、IRIS 衛星、SUNRISE 気球望遠鏡、地上ではビッグペア太陽観測所の1.6m 望遠鏡など新しい観測装置が稼働を開始し、「ひので」と相補的なデータが得られるようになりました。それらのデータと「ひので」による観測を組み合わせる新たな成果を創出することも、大きなテーマでした。

アクセスが決して良くない開催地にもかかわらず、海外から16ヶ国延べ142人、日本人を加えて242人が参加し、口頭発表とポスター発表の数はそれぞれ60件と170件に上りました。また11月11日には国際協力で検討を進めている次期太陽観測衛星 SOLAR-C

の科学会議を開催し、「ひので」の先を見据えて SOLAR-C が目指すサイエンスについて熱い討議が行われました。会議の最終日には、京都大学飛騨天文台と東京大学宇宙線研究所のスーパーカミオカンデへのエクスカージョン（見学会）に 120 人を超える方々が参加しました。1 週間にわたって大変密な研究会となりましたが、参加者全員にとって今後の大きな糧になったのではないかと思います。

なお、今回ひので会議の開催に当たっては、国立天文台、宇宙科学研究所、日本学術振興会、高山市、岐阜県から多大な援助を頂きました。ここにあらためてお礼申し上げます。

(一本 潔 記)

#### その他の LOC, SOC, 世話人担当

1. 第 18 回天体スペクトル研究会  
3 月 9 日–10 日 (京都大学理学部セミナーハウス)  
世話人 (野上大作)
2. 3.8m サイエンス・観測装置ワークショップ  
3 月 12 日–13 日 (国立天文台・三鷹)  
世話人 (野上大作)
3. 日本天文学会 2013 年春季年会・企画セッション  
ASJ-KAS Joint Sessions on Space Weather and Space Climate  
3 月 20 日–22 日 (埼玉大学)  
SOC chair、座長 (柴田一成)  
世話人、座長 (浅井歩)
4. 日本地球惑星科学連合 2013 年度連合大会  
5 月 21 日 (幕張) 宇宙天気セッション  
座長 浅井歩
5. IPELS (international workshop on the Interrelationship  
between Plasma Experiment in the Laboratory and in the Space)  
7 月 1 日–5 日 (白馬)  
SOC (K.Shibata)
6. ISSS-11 (11th International School/Symposium for Space Simulations)  
7 月 21 日–28 日 (National Central University, Taiwan R.O.C.)  
SOC (K.Shibata)
7. AOGS2013  
7 月 24 日–28 日 (Brisbane, Australia)  
Session ST20 : Sources of Solar Magnetism  
: From the Deep Interior to the Upper Atmosphere  
SOC (K.Shibata)

8. GSEE(The Global Partnership on Science Education through Engagement) in Kyoto  
10月20日–23日(京都)  
LOC (K.Shibata)
9. Kyoto Mini-Workshop on Dwarf Novae and Related Systems  
– New Directions in Time-Series Analysis –  
10月29日–30日(京都大学)  
世話人(野上 大作)
10. Solar-C Science Meeting  
11月11日(高山)  
SOC (K.Ichimoto)
11. CAWSESII meeting  
11月18日–22日(名古屋)  
SOC (K.Shibata)
12. 天文教育普及研究会近畿支部会  
12月1日(京都大学)  
世話人(野上 大作)
13. 第4回光・赤外線大学間連携ワークショップ  
12月10日–11日(兵庫県立大学西はりま天文台)  
世話人(野上 大作)

## 8.5 各種委員

### 学内

1. 理学部 将来計画委員会 委員: 柴田 一成
2. 理学部 教育委員会 委員: 一本 潔
3. 理学部 環境・安全委員会 委員: 野上 大作
4. 理学部 情報・広報委員会 委員: 上野 悟
5. 理学研究科 情報セキュリティ委員会 委員: 一本 潔
6. 理学部 Web 管理小委員会 委員: 上野 悟

### 学外

1. 学術会議 物理学委員会 天文学・宇宙物理学分科会 委員(連携会員): 柴田 一成
2. 日本天文学会 代議員: 柴田 一成
3. 日本天文学会 欧文研究報告(PASJ) 編集委員会 編集委員: 野上 大作、永田 伸一
4. 日本天文学会 天文教育委員会 委員: 石井 貴子
5. 日本天文学会 内地留学奨学金選考委員会 委員: 野上 大作
6. 日本天文学会 天体発見賞選考委員会 委員: 野上 大作
7. 国立天文台 太陽天体プラズマ専門委員会 委員: 一本 潔
8. 国立天文台 野辺山電波ヘリオグラフ コンソーシアム 委員: 一本 潔
9. 国立天文台 研究交流委員会 委員: 上野 悟